

2020年度 JKA 補助事業 ワークショップ 報告

9月3日(金)に2020年度JKA補助事業(昨年度から半期の延長)のワークショップをオンラインで開催いたしました。

今年度のテーマは「高齢者グループリビングの暮らしとケア」でした。第一部では、COCOせせらぎの運営者、居住者、ライフサポーターの皆さんより、運営や暮らしの様子などの発表がありました。みんなで運営していこうという運営者の思いが、居住者やサポーターに共有され、実行されており、「感激しました」という感想が多く寄せられました。

第2部では、2020年度JKA補助事業のテーマ「高齢者グループリビングと地域ケア資源の連携に関する研究」の成果発表を調査担当者が行いました。それぞれのグループリビングでの生活状況や考え方がわかり良かったというご意見をいただきました。

ワークショップの参加者は25名でした。参加者の皆様からは、様々なご意見、ご感想をいただきました。ありがとうございました。次ページに掲載いたしました。

また、調査対象の運営者の皆様には、大変な調査だったにもかかわらず、ご協力くださり、あらためて感謝も申し上げます。



オンラインワークショップの様子

ワークショップについてのご感想・ご意見

*一部を抜粋して掲載いたします。

COCO せせらぎの暮らし方、感動的でした。みんなで運営しようとする思いがグループリビングにとって、大事なことだと思います。民主主義を大事にしたいという代表の思いが、入居者にきちんと伝わっていることも素晴らしいです。地域との連携もできていて、介護が必要になっても、地域の資源を上手に活用できるのではないかと思います。

研究者の皆さんの発表で、ケアへの対応も各グループリビングの特徴が伺え、また、それぞれのグループリビングで支えあいが生まれている様子が解りました。グループリビングのケアの調査に疑問を感じるころもありました。グループリビングが終の棲家を目指して介護施設化してほしくない、と思っていますので。

報告書がどんなまとめになるのか、楽しみにしています。(NPO・運営者)

入居者自身が自分の住むグループリビングについて述べることは、説得力あると思います。他のグループリビングでも同じことをして、分析したら面白く、有益と思います。(NPO・居住者)

第1部の『COCO せせらぎの暮らしと運営』は、運営されている方と入居者の方の両方のお話を具体的にお聞きすることができてとても参考になりました。福山でのグループリビング作りが一步進んできたので、入居者の募集や入居後の暮らしや運営について具体的なイメージを作る上で興味深かったです。

第2部の研究報告では、地域ケア資源との連携を早い時期に作っておくことの必要性を感じました。また、“自立と共生”のグループリビングという住まい方が長く元気であることができ、介護保険を使わない期間を伸ばすことに有効だということの客観的なデータを積み上げることが必要・・・という上野先生のご意見に全く同感です。そのようなデータが出たらグループリビングに対する社会的な認知度や注目度が上がり、入居したい人や作ってみようという人が増えるのでは・・・と思いました。研究者の方々の今後の研究に期待したいと思いました。(グループリビングをつくりたい人)

「COCO せせらぎ」を支える小さな仕事”を拝見して、日常の様子がイメージ出来て、なんだか楽しそうだなと感じました。コロナが終わったら、空室を利用して、ボランティア目的で3日間~1週間、学生や一般の人が泊まれるといいな、と思います。そんな簡単なものではない、と言われてしまいそうですが、そしたら時間のある時に気軽にお手伝いに行けるのに、と思いました。

研修報告も大変勉強になりました。最初、何を目的にした調査なんだろう？と思いつつ、またGLは一体いつまで居られる所なんだろう？と疑問を抱きつつ聞いていました。

GL：「居住継続の限界は認知症」とあったり、GLの中で「最後まで居られない」というコメントもあり、最後は自宅に戻れるようにして入居するものなのか。と思いました。ですが、アンケート結果の個人のコメントを伺って、それぞれに色々な思いを抱えて生活しているという事がリアルに伝わって来ました。

GL自体が若い内は入居者も元気だからいいと思いますが、全員一緒に年をとるので、段々大変になるのだらうと察します。年齢に差をつけて入居して頂くことも大切だと思いました。

「人間関係やその他トラブルはあって当たり前」という寛大なスタンスが前提としてある事も必要だと思いました。

もし近所にこのようなGLがあれば、ちょくちょく遊びに行って、お手伝いできるのに、と思います。

今日は入居者の方たちの、それぞれの思いやりが感じられるワークショップでした。最後に「GLに居る方は幸せだと思います」とおっしゃっている方がいらっしゃいましたが、本当にそうだと思います。

調査の中で月々の負担金額などもありましたが、もう少し具体的に入居金や各GLでの財政状況（厳しいと思いますが）なども機会があれば聞いてみたいです。

また機会があれば、今回新たにスタートした中川さんの所の様子もお聞きしてみたいと思いました。

介護保険もあまり良い方向に行っていないようなので、その辺も機会があれば勉強してみたいです。

（グループリビングに興味がある人）

ケアに関する報告では、それぞれのグループリビングでの生活状況や考え方が解りとても良かったと思います。その意味でも、ワークショップの録画をぜひグループリビング運営協議会のホームページに掲載できると良いと思います。

上野さんが言っておられたように、グループリビングでの生活が、サ高住やひとり暮らしなどとくらべて元気でいる時間が長い、介護度の進み方が遅い、介護保険を利用しなくて済む時間が長いなどの客観的な指標があるとグループリビングの良さのひとつとして訴えやすくなりますね。

会員の中でのグループリビングと他の事業の構成がどの程度なのか知りたいところです。

（NPO・運営者）



グループリビング運営協議会メンバー募集中

グループリビング運営者はもとより、これから作りたい人、応援したい人、研究したい人、またグループリビングという名称に拘らず、グループリビングに類似した共生の住まいも対象にしております。

【活動内容】

1. グループリビングへの支援・相談
2. ワークショップの開催
3. ホームページの運営
4. グループリビングの調査研究
5. その他、本協議会の目的を達成するために必要な事業。

詳細は以下の URL にあります。

<http://glnet-groupliving.org/glnet/glnet-recruit>

福山グループリビング計画 経過報告

中川恵子

福山でグループリビング準備会をスタートさせたのが2019年9月。2020年1月に2名が『COCO 湘南台』と『COCO たかくら』を見学させていただきました。この頃から新型コロナウイルス感染症が日本に上陸、2月に『COCO 湘南』の見学報告をした後、全国に緊急事態宣言が出され集まって準備会を行なうことができなくなりました。

当初予定していた“GL 運営協議会加盟の福山から近いグループリビングをみんなで見学しよう”という計画も実行できないまま・・・その後、何回も緊急事態宣言が出され、その度に集まることができなくなり・・・。メールや文書で意見交換をしながら進めました。

福山での『グループリビングという暮らし』についての反応を知ろうと勧誘ピラを作って配布。まずまずの反響があり、また、いろいろな問い合わせがあり、実際に作るにあたって考慮することがいろいろ浮かんできました。

グループリビングの需要が一定は見込める、と分かったので、銀行に融資の申し込みに行きました。“高齢者施設ではない、グループリビングという住まい方”を理解してもらうことに時間がかかり、そして、“福山初の取り組み”ということもあり、何度もヒヤリングを重ね、やっと今年7月に融資が決まりました。

融資が決まったので一般社団法人を作って設立総会を行ない、多くの人に賛同してもらい賛助会員として資金面でも運営面でも支えてもらおう・・・という計画だったのですが、またまた緊急事態宣言が出てしまい、どうしたものか・・・。現在、法人の設立準備と設計者の選定作業を進めているところですので、先に法人を設立し設計者を決めて、設立総会はコロナ感染がもっと落ち着いて安心できる状況になってからおこなってもよいかと思っています。2023年の春か秋にオープンできるようにしたい、と思っていますが、コロナ感染が収まっても次の感染症が出てくることは十分に考えられますので、それに対応できるような建物作りができるチャンス、と思って焦らずに進めていこうと思っています。今後、中身を作っていくうえで GL 運営協議会のみなさまのお知恵をお借りしたいことがいろいろ出てくると思いますので、その節はよろしく願いいたします。



この会報は、公益財団法人 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会を創る活動」で運営されています。

編集後記

ロシアの政治思想家、クロボトキンは、ダーウィンの進化論を前提に「相互扶助論」を書いている。その中では、「相互扶助」の原理を「進化」の一要素とし、「相互扶助」を受け入れ、引き継いだ種のみが自らを進歩させ、進化し、自らを維持できたと述べている。今回の調査研究では、グループリビングの住民の間に様々な相互扶助が生まれていたことを把握した。緊急時の対応からデイサービスの見送り、食事の時の見守り、励ましなど、幅広く行われていた。それは、自主的、自発的な行動で、一回一回が等価交換の基準に従ってキリが付けられる関係ではなかった。また、居住者の関係は、特別に仲良しということではなく、一定の距離を置いて付き合っている場合が多い。それでも一つ屋根の下、一緒に暮らしていく中で、お互いを気遣いながら、このような関係性が生まれている。人に助けをもらおうと嬉しい。誰かの役に立って嬉しい。そのような関係性を持てる場があることは、グループリビングの魅力の1つだと思う。(な)

編集委員 石原智秋 土井原奈津江